



最近自動車の趨勢と道路の改良

道路改良會評議員
國際通運株式會社長

中野 金次郎

我が國の道路は最近各方面に互つて改良の事業が進められて來て、着々として其の面目を改めつつある。斯く道路改良の機運を促進したことは、道路改良會の宣傳活動も與つて力ある事と思ふが、一面自動車の普及發達さふ事が、大いに其の原因を成して居ると思ふ。

由來道路と自動車といふものは最も深い關係を有するものである。道路の改良は即ち自動車の利用を増大し、自動車の發達は延いて道路の改良を促すことになるのであつて、互に因を成し果を成して發達するものである。

我が國に於ても震災當時までは、自動車は贅澤品であるに一般に目せられて居つて、其の利用の範圍も極めて狭いものであつたが、今日は如何なる山間僻地に在つても、多少なりとも之が經濟的利用を見ない所は無いと謂つて宜しい程度に、其の利用は著しく進んで來た。即ち今や自動車といふものは、國民の日常生活の上に新らしき交通機關として缺くべからざる必需品となつたと謂ふべきである。

二

自動車が一たび世に現はれるや、新しき交通機關として、世界的に非常な發達を遂げて來たことは、今更喋々する迄もないが、最近數年間に於ける我が國自動車の發達の趨勢を見るに

| | | | |
|--------|-----|---------|---------|
| 大正十二年末 | 乗用車 | 九、九九二臺 | 二一、〇九〇臺 |
| 大正十三年末 | 乗用車 | 一八、九五一臺 | 二七、二二三臺 |
| 大正十四年末 | 乗用車 | 二二、四五六臺 | 三一、八八一臺 |
| 昭和元年末 | 貨物車 | 二七、九五九臺 | 四〇、〇五六臺 |
| | 貨物車 | 二七、〇九七臺 | |

此趨勢ニ依リ昭和元年末ヨリ二年末迄ニ於ケル一ケ年間増加率ヲ約二割五分ト算定シ前記ニ

加算スル時ハ

昭和 二年末 乗用車
貨物車

三四、九四八臺
一五、一二一臺

五〇、〇六九臺

トナルガ必シモ此數字ハ過大ニハ非ラサルヘシ

斯の如き數字を示して居る。併ながら之を世界を通じて觀るときは、未だ歐米先進國に比して著しく劣つて居る譯であるから、今後は倍々急速の勢ひを以て、之が利用の増加されることは疑ひの無い所であり、又大いに其の餘地があるを謂はなければならぬ。

従來我が國に於て、比較的自動車の利用が遅れて居つたといふことは、其の價格に於て高きに過ぎ、又其の燃料たるガソリンも之を外國に求めなければならぬ爲めに高價であるといふ事が、其の主なる理由であつたを考へる。

然るに先年來亞米利加のフォード會社は、橫濱に工場を設けて、亞米利加から自動車を材料の儘運んで來て、橫濱の工場に於て之を組立て、會社自から賣出すことになつた。其の結果フォードの自動車は内地に於て非常な賣行を見たのである。又之に對抗してゼネラル、モーター、ス會社も大阪に工場を設けて、大々的に自動車の販賣を擴張するに至つた。即ち従來亞米利加の製造會社から需要家の手に渡る迄には、多數の中間貿易商等の手を経て居つたものが、直接製造家から需要者に販賣される事になつた爲に、其の價格に於て非常な低減を見るに至つたのである。一面ガソリンの如きも、特に内地で種々の油を混合して、徳用品として安價に之を賣出されることになつた結果、是れ亦自動車の利用を増進する事になつたのである。

斯くの如く自動車の利用が普及するに伴つて最も必要を感じるものは即ち道路である。自動車は言ふ迄もなく道路に依つて其の利用を完うするものであるから、自動車が完全に其の機能を發揮する爲には先以て完全に改良されたる道路を要求する譯である。然るに最近自動車の急激な發達は、我が國の道路の改良を待つゝの違なく、即ち道路の善惡を問はず多少でも利用し得る範圍に於いては——否、或る場合には非常な無理を敢てしてまでも遮二無二これを利用して居るこいふ現状である。

茲に於てか自然の結果、道路の改良を促さざるを得ないこいふ結果を齎して居るのである。語を換へて言へば、自動車は遠慮なく道路を破壊するこいつて自動車に依る道路の利用を拒むことは到底出來ない。是が非でも道路の改良を餘儀なくせしめられて居るこいふ點が尠くないこ考へる。

四

最近ゼネラルモーターズ會社は、自社の製品たるモビール號自動車を以て、青森から鹿兒島までの走行試験を舉行したが、其の結果に依るこ、

青森——鹿兒島間

國道哩壹千四百貳拾哩

走行時間 七十二時間

一時間平均十九哩七二

(所要時間九十四時間ヨリ
休憩時間二十二時間ヲ除ク)

青森、鹿兒島間を連絡する道路の中には、所謂自動車の交通に適せざる、舊來の頗る粗惡な道路もまだ多いことであらうと思ふ。それにも拘らず斯の如き好成绩を示して居るこゝは、其の反面に於て道路の改良といふ事に依つて、より以上に自動車の利用が増進せられるものであるといふことを、雄辨に物語るものであつて、此の擧の如きも國民をして益々道路の眞價を知らしむる一助なるものであらうと思ふのである。

五

一面自動車の發達に依つて、全國の私設鐵道軌道等は、一般的に非常な脅威を感じて來たのである。其の結果、經營困難を訴へる會社も少くないといふので、帝國鐵道協會に於ては、昨年來之が對策を攻究すべく、特に委員會を設置して調査研究に着手した。

然るに其の結果は、如に何對策を講ずることも、結局近距離の輸送に對しては、自動車は鐵道軌道に優つて居るものであるといふ事を認めざるを得ない。寧ろ今後は國家經濟の見地から、近距離の鐵道、軌道は成るべく之が建築を見合せて、自動車の利用に讓る方が、國家の大局から觀て適當であるといふ結論に到達したといふことである。

即ち道路の利用は、從來經濟的利用といふ事を基礎に置かれなかつたに對して、最近自動車の發達

は道路を經濟的に利用するの最も有利なる結果を招來したのであつて、今後は經濟を基礎としての道路の改良が行はなければならぬと思ふ。

道路改良會の事業として、技術方面の事柄は既に十分の調査研究が積まれて居るであらう。今後の道路改良は、益々利用方面に重きを置いて、主として自動車の發達の趨勢を調査研究して、將來の道路の改良發達に備へることが最も緊要な事であるを信するのである。

六

最近自分の友人に、大船から江の島鎌倉に通ずる自動車専用道路の事業を企て、居る者がある。

其の計畫は、先づ第一期事業として、大船の江の島の間四哩餘の所に、幅員三間半の自動車専用道路を建設し、將來は之を延長して鎌倉に達し、又東京に乘入れやうといふのであるが、今其の事業の特色として算へて居る所を見るこゝ。

一 自動車専用道路は建設費が電車の三分ノ一乃至四分ノ一にて足り、而も輸送能力に於て伸縮自在なるこゝ。

二 自動車以外の通行を禁ずるを以て自動車本來の速能を極度に發揮し、安全正確に運轉し得るこゝ。

三 路面は混凝土鋪裝を爲す故乗心地よきのみならず、車體殊にタイヤの損傷少きこゝ等を擧げて居るやうである。自動車専用道路といふものは、今後の交通状態に一新時期を劃すこゝも

言ふべき最新の考案であつて、今や各地に其の計畫があるやうであるが、本事業は其の先鞭を着けんとするものゝやうである。

思ふに此の種の計畫は、運輸交通の進歩と自動車の發達に伴つて、今後着々として各方面に企てられる事と考へる。道路改良會に於ても全國の各種の機關と連絡を取つて將來自動車専用道路を建設して有利に經營し得るやうな見込のある箇所を調査して、速に之を公表せられたならば蓋し時代に適應する施設ではないかと思ふのである。

(了)

道路使用の心得

道路改良會評議員

門野重九郎

前年濠洲に旅行したる時、ニューサウスウエールズ州にて從來の車馬通行は左側人は右側通行なりしを其日より人車馬共に左側通行即ち我國と同様に改めたる日偶々シドニー市に居合せたるが、永年右側を歩き居りたる市民が急に其の朝より左側となりたることとて新規則を覺込み之を守